【医療機関向け】活用例

直近の薬剤情報等の確認で重篤出血患者の救命につなげた事例

情報提供元：福岡大学病院/ 福岡県

POINT：救急時医療情報閲覧機能と電子処方箋システム由来の直近の薬剤情報により抗凝固薬の服用を確認。重篤出血症例の適切かつ速やかな治療に寄与。

事例詳細

症例

80歳代 女性

重篤な出血で救急搬送

- かかりつけ医療機関のスタッフが自宅訪問。
- 複数回の黒色嘔吐や出血痕に加え、体動困難であったため救急要請。

搬送・来院

お薬手帳 未持参　口頭 聞き取り

患者の**薬の服用歴を確認できない。**

- 重篤な上部消化管出血の疑いで止血困難
- 抗凝固薬の服薬も疑われ、その考慮が必要だが･･･。

救急時医療情報閲覧による治療方針決定

マイナ保険証の持参　※同意取得は困難

電子カルテシステム等 → 抗凝固薬アピキサバン錠2.5mg 1回1錠 1日2回内服中

直近の薬剤情報から病院薬剤師が**服薬中の薬剤、用法などを確認し、治療方針を決定。**

病院スタッフ間で情報共有

- 抗凝固薬の服用状況が分かった。
- 踏まえて迅速な中和療法と循環管理を行おう！

適切かつ速やかな治療

- 不要な中和薬の投与回避
- 適切な投与量区分の選択

抗凝固薬アピキサバン錠に対し、抗凝固の中和作用を持つアンデキサネットアルファ製剤を処置。

【病院からの声】

救急では、救急時医療情報閲覧と、そこから得られる医療情報への迅速なアクセスは、治療方針決定に直結し、重篤出血症例の救命率向上に寄与すると感じています。

【ポイント】

- マイナ保険証で本人確認を行い救急時医療情報閲覧を活用。
- **同意取得が困難な患者の医療情報等の確認が可能。**
- 当該患者は**普段から電子処方箋対応施設を利用していたため、直近の薬剤情報が確認できた。**